

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700645		
法人名	有限会社 ケア・ワン		
事業所名	グループホームふなお		
所在地	倉敷市船穂町船穂1953-1		
自己評価作成日	平成23年7月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がホーム内での集団生活の役割を持つように支援しています。洗濯、食事、うさぎの世話、畑や花壇の世話、掃除など。利用者がそこに住み生活するという事を考え、出来るだけそのひとらしい生活が行えるよう私たちはあくまで支えるという事を目指しています。中には、競艇や、パチンコなどを楽しみに行く人もおられますし、出来るだけ、今までの生活に近い生活スタイルの維持を継続し、認知症の進行予防に努めています。また、なじみの職員がずっと寄り添えるよう、介護職員の離職が少なくなるように努めています。介護スタッフが働く場としても環境整備(労働基準法順守、各種保険完備、退職金整備、高齢者再雇用制度の導入や、育児休業支援など。)を行い、結果として、安定した介護サービスの提供に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年8月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新幹線と山陽本線に挟まれた田園の中にあるが、騒音や振動を感じることなく、行き交う列車が風景にアクセントを与えている。元々大規模な事業所に勤務していた代表が、より個人対個人の密な関係におけるケアを目指し、土地探しや資金サポート、建物の設計建築などに地元の多くの人々の協力を得て設立に至った経緯を持っている。したがって地域との密着度も高い。単なる施設ではなく、利用者の声を聞き、それを反映できる事業所、利用者が外出し易く、行きたい場所に行ける、利用者の生活圏を広げていけるような場を目指している。一方、職員を離職させない取り組みにも積極的で、パートを含めた退職金制度の確立や、育児休暇後の復帰のしやすさなどを確立し、有給休暇の全消化も目指して、職員の長期安定雇用にも努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員で話し合いを行い、決めました。見えやすい場所に掲示しいつでも確認できるようにしています。	家庭的雰囲気の中で、その人らしい生活を支援する旨を要旨とした運営理念が事務所に掲示されている。ただ、全文で200文字以上あるので全体を記憶することを管理者が求めたり、朝礼などで確認することはない。	現状の理念を「なんでも利用者を中心にし、利用者と共に考え」という内容のシンプルなものへの変更を検討しているという。それを実現し、事業所全体が一丸となって理念の実践を実現することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から、様々な農産物を頂く事が多々あります。例えば、桃や、梅をもらい、それをジャムや、漬けもの等にして、お返しをしたりします、作った野菜で調理し、ご近所に配って持っていく等、昔ながらのご近所付き合いを継続しています。	地域の方の協力から設立された経緯もあり、近くの畑に利用者が伺わせてもらったり、近隣中学の職場体験の受け入れ、地域のクリスマスツリー建立の手伝いなど様々な面で交流出来ている。事業所のイベントにも地域住民が多く来訪するようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花火大会など行い、地域の方との交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見を利用者向上に活かしている	グループホーム内での活動を報告し、意見またアドバイスを受けている。現場で話し合いをし、ホームに活かせる形に変えて実践している。	推進会議は開催日時をあらかじめ決め、参加者の予定に組み込んでもらっている。平日開催なので家族の参加はほとんど無い。利用者の残存能力を維持するためのスタンプ制度などのアイデアは会議から得て、事業所の活動に加えることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や社会福祉事務所等処遇の対応に困った時にはすぐに連絡し相談しております	市とは、業務の報告・相談の他、地域との関係を強めるために敷地内での地元の果物の販売の可否の相談などもする。支援センターには近隣事業所の集まりに加えてもらい、事業所間の関係構築やサービス内容を民生委員などに説明することが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをつくり、参考資料と一緒にファイルしいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています	器具を使う拘束は全くしていない。玄関は扉間は施錠せず、居室の窓もいつでも全開できるようにしている。言葉の拘束に対しては、完全に無くすには至っていないが、出来る限り利用者に不満を抱かせないように職員同士で注意し合うように意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをつくり、参考資料と一緒にファイルしいつでも閲覧できるようにしています。また、会議で話をしたりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を現在利用している方がおられます。弁護士さんとは必要に応じて連絡を取りあっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分説明をおこなったうえで同意を頂いています。またその都度連絡を行って、説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機関を設ける事はしておりませんが、その都度ご意見を聞きようとしています。	意見箱に苦情が入ったことは無い。意見や要望については、受けた段階で、職員間に周知している。請求書を送付する際に、日頃の様子を記した手紙に何かあったらお伝えくださいという言葉添えている。また、カラー写真満載の事業所便りを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議、ユニット会議、全体会議を設けています。必要に応じて意見交換しています	職員から意見や苦情が来ると、職員間の風通しも良い。職員からの声で入浴用品などが改善されるなど運営に反映している。事業所もパートを含めた退職金制度や有給の全消化、ボーナス時の肉の支給などで職員の就労意識を高め関係を強めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法順守しております。退職金の整備や育児休業の支援等、継続して働ける環境を作っています。離職率は低くなっています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員交代で外部の講習を受けにいきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会の会合を通じて地域の同業者と交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にしっかりコミュニケーションを図り、家族を含め意向を聞きながらケアプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にしっかりコミュニケーションを図り、意向を聞きながらケアプランを作成している。また、面会時に随時要望が無いか聞いています。面会がほとんどない家族もいますので、ケアプランを郵送で送り、説明書を入れているケースもあります		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員やケースワーカーと相談し家族やご本人のご希望に添うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここはその方の生活の場としてその人の生活をそのまま送れるように支援しようと考えています。私たちはその支えぐらいに考え努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活状況を郵送しております。また、その都度面会時等話が行えるよう環境を作っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人、家族から生活歴を聞いたり日々の生活の中で情報を得るようにしています。希望があれば以前住んでいた所に出かけたり電話をかけたたり手紙を出したりもしています	利用者ごとのアルバムを制作し、家族等の訪問者との話題作りの支援をしている。利用者の多くが地元なので、コミュニケーションは取りやすい。墓参りなど馴染みの場所にお連れしたり、電話の送受信や近況報告的な手紙の投函の支援なども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に入り、話がしやすい環境を作ったり職員がよりそうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な例では、退所への取り組みに成功した方が在宅から共有型デイサービスとしてサービス提供を行い、慣れた環境でという家族、利用者の方の意見を取り入れ実現した例があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向を聞きケアプランに取り入れています。日々の話の中から要望が出た時にはその都度対応しています。	利用者から希望が出た際には、すぐに対応できるように努めているので、すぐに実現することをモットーにしている。意志を表明出来ない人の場合は、寄り添い状態を見て、その人に必要なことは何かを想像して対処するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族、本人から生活歴を聞き、日常の会話から出てきた言葉を継ぎ足しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯・夜勤帯・医療面で色を変えて介護記録し、看護師による、状態の観察を行ったり、病院への定期受診の介助を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを3か月に1回行い課題やケアについて話し合っている。また、送りノートを活用し細かな面も意見交換を行っている。	職員には、日頃から利用者の介護計画を意識し、それに合ったサービスを提供するように話している。その一環として各利用者の介護目標一覧を事務所に掲示して意識づけしている。ただ職員の意識はまだ高くなく、記録内容も不備があるので改善を考えている。	介護計画の内容や介護目標、計画の立案間隔に統一感が欠けていること、職員の関心の低さを管理者は意識している。モニタリングの方法等も改善したいと考えていることなので、是非実現されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて状態等の情報の共有を行い、気付いた事があれば、その都度話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な旅行の対応、映画や、競艇、絵画展など柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長年のなじみの医療機関(医者)をそのまま主治医としております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何かあれば相談、指示がもらえ、また利用者の状態に合わせ、他病院への紹介をして頂いている	看護師を増強し、平日日中に常駐するようにしたので異常時や薬の扱いなどを安心して委ねられる。かかりつけ医の受診にも定期的に付添い、医療情報の交換などもしている。協力医もいるが、従来の医師を希望する利用者には継続受診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により状態確認、定期受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な電話や面会による状態把握を行い退院時期の話を行い、ホームでの助言ももらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのチーム化、マニュアルがあり、家族、本人に説明し、同意書を頂いている。	重度化指針、容体急変マニュアルを整備し、入居時に説明の上、同意書を得ている。万一の事態に備えているが、事業所開設以来看取りは発生していない。若い職員の中には不安を感じる者もいるが、経験ある職員の状況説明などにより解決を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、見やすいところに掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり見やすいところに掲示している。また年2回避難訓練を行っている	夜間想定訓練はシナリオを作成し、時間計測を行っている。非常時マニュアルの掲示や避難訓練により職員の消防署への通報装置の所在・操作方法などの把握はできていた。しかし避難経路の把握については不完全で、一部の消火器の所在はわかりにくかった。	左記に加え地震、津波に関するマニュアルや家具の倒壊防止などの地震対策も未整備であった。不完全な点については対策を講じ、いつ非常事態になっても万全な状況で対処できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語をきちんと使うように指導しております	押しつけの言葉を使わないよう事を重視している。利用者の意向を聞かずに一方的にサービスすることはNGとし、意向を尋ね、それに沿った支援を心がけている。またポータブルトイレの蓋締めなど最低限守ってほしいことには目にする度に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の希望や思いを聞いたりし、その都度対応しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人から、希望をうかがい出来るだけ本人様の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回散髪があり、ひげそりの声かけなど毎日行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態を把握しています。普段の会話の中で食べたいものを聞いて一緒に買い物に行ったりもしている。	献立は利用者の安全を重視している。調査の際も利用者の希望でサンマを食事に出していた。餅等については、誤嚥のリスクのある利用者には食感の似た代用品を提供している。調理専門職員を昼と夜は配置し、他の職員が利用者支援に当たれるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表があり摂取量が少ない時には回数を増やすとか好みの物にかえるなど確保しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしています夕食後は洗浄剤にて入れ歯のケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行っています。	排泄パターンを使用しての声掛け、誘導が必要な利用者は半分弱で、あとは自立している。おむつの利用者は3人。昼夜を通じてトイレでの排泄を推進するために利用者の個性に合わせた声掛けを行うが、しつこく感じられないように配慮してい	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者にはしっかり水分をとってもらうなど取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった曜日・時間にて入浴を行っています。現在入居者様お一人お一人の希望を伺い、個々にあった支援ができるよう、業務全体を見直しています。	利用者に声掛けをして入浴を開始するが、早い場合は午前8時くらいから始まることもある。一人当たり20分程度の入浴を目途にしている。入浴剤を使って色や香りでリラックスしてもらったり、会話や歌で入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度対応しております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の袋に、名前、日付が書いてあり服薬直前に確認しています。個人記録に薬の一覧表あります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を踏まえ、役割分担があり、趣味の活動ができるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体の状態を考慮し、希望に沿って外出の支援を行っています。	瀬戸大橋や倉敷美観地区、花見など多くの場所に出かけている。マイクロバスを所有しているのが大きい。遠出を月に一度は実施するようにしている。数日に一度は散歩や買い物で外出するようにしている。富士山を見たいという利用者の希望の実現を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお小遣いとしていくらか持ち自己管理しています。それで外出時などに好きな物を買われて言います		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話をかけたり、手紙を出したりしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者含めて話しながら決めています	無垢の木の梁や床が温かい。職員による丁寧なモップがけにより、かつての木造校舎の床のような風合いになっている。職員がリビングにいる時間を増やし、壁に掲示した外出時の写真等を話題にしてコミュニケーションしながら居心地良さを創造している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースも何箇所か集まる空間があるので好きなところに自由に座られています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたたんすや仏壇等を持ちこんで頂いています。	居室はリビング同様無垢の板張りになっている。利用者の希望により畳対応も可能である。清掃は出来る部分は利用者に行ってもらい、残りを職員がフォローしている。金魚のような他の利用者に危険を及ぼさないペットならば居室内での飼育も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故がないように気をつけてます		